

政治献金



はじめに

シナリオ・センター研修科の学習課程で創作したシナリオ「アルコール・マネー」を収録しています。

映像にすると約10分のショートドラマになります。

この物語はフィクションであり、実在の人物、団体、企業とは一切関係ありません。

表紙画像：カラヴァッジョ（1573–1610）「聖パウロの改宗」（1600）

人物

三村秀紀（55）神奈川県知事候補

徳重善幸（70）善幸会理事長

桜内清香（40）ジャーナリスト

○横浜駅・駅前広場

選挙演説カーの上に三村秀紀（55）と桜内清香（40）。

大勢の聴衆が集まっている。

三村「作家時代の仲間が応援に来てくれました。元アナウンサーでフリージャーナリストの桜内清香さんです」

聴衆から拍手。桜内、手を振る。

桜内「三村秀紀は正義を貫く男です。三村は神奈川県を変えてくれます。皆さん是非、三村を神奈川県知事にして下さい」

聴衆から拍手。桜内と三村、聴衆に礼。

○割烹『浜幸』・表（夜）

老舗の割烹である。

○同・個室（夜）

奥に徳重義幸（70）、手前に三村。

三村、徳重の盃に日本酒を注いでいる。

三村「ご挨拶が遅れすみません。徳重理事長のところには真っ先にお伺いすべきでした」

徳重「三村さんは作家で知名度があるし、副知事としてやってきた実績もある。選挙戦も有利でしょう」

三村「何分選挙は初めてです。お金はかかるし、人気の候補は多いし、色々大変です」

徳重「金のことで困っているなら、何でも言って下さい。力になりますよ」

三村「作家時代に政治献金を告発してきたんです。援助を受けるわけにはいきません」

徳重「そりゃそうだ」

徳重、手を2回叩く。

襖が開き、芸者が数名入ってくる。

徳重「今日は前祝いだ。さ、飲んで飲んで」

○同・中庭（夜）

日本庭園である。奥の座敷から三味線の音が聞こえる。

○同・個室（夜）

三村、芸者に囲まれ酒を飲んでいる。

徳重、風呂敷の中からジェラルミンケースを取り出す。芸者達、部屋を出る。

徳重「三村さん、これ、選挙に使って下さい」

三村「何ですか？ 受け取れませんよ」

徳重「きれいごとはやめにしましょう。みんなもらってるんですよ。さあ」

三村「お断りします」

徳重「三村さんね、私は九州から出てきて、三百以上の施設を持つ日本最大の医療グループを作り上げた。どうしてかわかりますか？」

徳重、皿にある鯛の頭にかぶりつく。

徳重「日本の医療を変えるため今まで正も邪も飲んできた。正義を貫くためには手段を選ぶ暇なんてないんです」

三村「徳重理事長、しまってください」

三村、ケースを徳重の方に押す。

徳重「献金じゃありません。お金をちょっと貸すだけだ。今は選挙でお金足りないでしょう？

後で返してもらえればいい」

三村「その、いくらなんですか？」

徳重、ケースを開ける。札束である。

徳重「たったの五千万だ。大義を成すため使ってください」

三村、札束を見詰めている。

徳重「今老人介護サービスに力を入れてましてね。福祉法人が一社、先月倒産したでしょう。あそこの施設をもらいたいんです」

三村「取引、ということですか？」

徳重「平塚と相模大野の施設ね、改築費を助成金で負担してもらえたら、こんな嬉しいことはない。それで借金返済としましょう」

三村、札束を見詰めている。

徳重「三村さん、神奈川県を幸せにするためには、必要なお金でしょう？」

三村、ケースを手元に引き寄せる。

○三村の選挙事務所・外観（夜）

桜の木に囲まれた選挙事務所である。

○同・室内（夜）

三村、支援者達と万歳三唱している。

○バー『ジャスティス』（夜）

ボックス席で支援者達が騒いでいる。

カウンターに三村と清香、並んで座りウィスキーを飲んでいる。

清香「当選おめでとう」

三村「君の応援演説のおかげだよ」

清香「こんな時に早速であれなんだけど、その、相談したいことがあるのね」

清香、三村の手のひらをつかみ、自分の膝の上に乗せる。

清香「県の政策会議か何かの特別顧問として、私、雇ってくれない？」

三村「ジャーナリストの誇りを失ったのか？」

三村、手をテーブルに戻す。

清香「別れた夫の借金もあるし、母が末期がんでね、入院費やら薬代やら大変で」

三村「いくらお前の頼みでも、知事の力を乱用することなんてできない」

清香「ごめん、冗談。今の気にしないで。三村さんは姑息な取引好きじゃなかったね」

三村、ウィスキーグラスを飲み干す。

○横浜市・上空からの全景

粉雪が降っている。

○神奈川県庁本庁舎・外観

正面入口に『世界陸上横浜・2018年開催決定』の横断幕。

○同・知事室

クリスマスツリーが飾られている。書棚には本が並んでいる。

三村、週刊誌を読んでいる。

紙面には、『神奈川県議会大揺れ。三村知事、善行会から政治献金疑惑』とある。

ドアが開き、清香が入ってくる。

清香「政治献金って本当なの？」

三村「金を借りただけだ。献金じゃない」

三村「そんな言い訳、世間が認めると思う？」

三村「清香、どうしたらいい？ このまま県知事を続けた方がいいのか？ 潔く辞職した方がいいのか？」

清香「知事の椅子がそんなに愛しいわけ？」

三村「違う。まだやり残した政策がある。それに辞職したら献金を認めたことになる」

清香「私は今すぐにでも辞職表明した方がいいと思う。でも、献金は否定して知事を続けるのね？」

三村「ああ。神奈川県暮らしをよくする。そのために知事をやってきたんだ」

清香「世界陸上開催までは辞めたくない」と

秘書が入室。コーヒー二人分を客席のテーブルに置く。

三村「答弁した通り、借用書だってあるんだ」

三村、書棚の方へ。

秘書、部屋を出る。

清香、コーヒーに白い粉を入れる。

三村、借用書を見つけ、戻ってくる。

三村「見てくれ。善行会の実印入りだろ」

清香、借用書を一瞥して、三村に返す。。

清香「この後記者会見でしょ。私も記者席に座るけど、本気で質問していい？」

三村「構わないよ。乗り切る自信はあるさ」

清香「じゃあ私も本気で行くから」

清香、三村にチョコを渡す。

三村、チョコを食べる。

三村「酒入りかこれ？」

清香「ウィスキーボンボン」

三村「変なの食べさせやがって」

三村、コーヒーを飲む。

清香「メリークリスマス、三村知事」

清香、三村を見て微笑んでいる。

○同・記者会見場

顔を赤くし目もうつろな三村、檀上に立っている。記者席に清香がいる。

清香「善行会から5千万円の政治献金があったというのは、事実でしょうか？」

三村「うー、献金では、あー、ありましえん」

清香「ありましえん？ 知事、先程から体調が優れないようですが」

三村「あの、何だろう。酒はね、飲んでないと、あー、思うが、酔っては、あー、いる」

清香「知事、誠心誠意答えるべきですよ」

三村「献金は、してない。あの、借用書もある。何で、うー、信じてくれないのか」

三村、檀上に倒れ込む。

清香「これでは会見になりません。政治献金云々より知事としての良識を疑います」

三村、口をおさえ、吐きそうである。

○割烹『浜幸』・外観（夜）

○同・個室（夜）

徳重の隣に清香。清香、徳重の盃にお酌している。

徳重「意識朦朧で記者会見とは。あの酔っ払い知事。品性のかげらもない」

清香「これで知事の信用は失墜。世論は知事の人間性を批判する方向に向かうでしょう」

徳重「献金の証拠を簡単につかまれおって。脇が甘いんだよあの男。酔っ払いとして幕を下りてもらうさ」

清香「善行会は生き延びて、彼だけが終わる。向精神薬の副作用って怖いですね」

徳重「君のおかげだ」

清香「それでは理事長、約束通り？」

徳重「ああ。君のお母さんの医療費は心配するな。借金も手を回しておこう」

清香、徳重の頬にキスする。

徳重「次の知事選に出馬する気はあるか？」

清香「私に県知事何て務まりませんよ。正義のジャーナリスト役で十分です」

徳重「悪い女だね君も」

徳重、清香と杯を交わす。

○神奈川県庁本庁舎・知事室（夜）

三村、ソファーに座り、記者会見映像を見ている。顔は赤く、汗だくである。

三村「終わりだ。はめられたんだ。あいつに」

三村、喉元にナイフを当てる。（了）

アルコール・マネー～政治献金スキャンダルのシナリオ

<http://p.booklog.jp/book/80671>

著者：野尻有希

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/feltmail/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/80671>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/80671>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ